

【映像】

愛知芸術文化センターオリジナル映像作品第 20 弾

選定作家：

牧野 貴（まきの・たかし／1978年東京生まれ）

2001年日本大学芸術学部映画学科撮影コース卒。同大在学中より多数の8mm映画を制作。2001年、単身ロンドンに渡り、ブラザーズ・クエイのアトリエで音楽と照明について学ぶ。帰国後もフィルムによる映画製作を続け、2004年より、ライブスペースやギャラリーで個展上映を開始する。

2008年、「第37回ロッテルダム国際映画祭」で大規模な特集が組まれる。2009年、『still in cosmos』が、世界最大の実験映画祭と呼ばれる「第5回25FPS 国際実験映画祭」でグランプリを獲得。同年、初の中篇作品『The World』が劇場公開される。2010年には、愛知県で初めて開催された国際芸術祭「あいちトリエンナーレ2010」映像プログラムに出品するなど、多くの国内外映画祭や、美術展に参加。

また、ジム・オルークやカール・ストーンら、第一線で活躍する音楽家と組み、コラボレーション的な相乗効果を意図した制作姿勢も特色といえる。フィルムとビデオ、二つの方法、技術を最大限に活用し、映像と音楽を同価値に捉えながら、映画を精力的に制作、発表し、注目を集めている。

その作風は、フィルムの多重露光や、フィルムからビデオへのテレシネ時に生じる画像変換などを活かした、ノイジーな抽象映像でありながら、ドラマ性やエモーショナルな高揚感を有していて、従来の実験映画から新たな領域へと踏み込んだ、独自の世界を構築している。実験映画の歴史やその成果を踏まえつつも、映像表現の新たな可能性を追求する姿勢から生み出される作品は、若い世代を中心に幅広い支持を集めている。

提出された企画書『generator』は、空撮によって捉えた都市のイメージをベースに、人間の身体の構造や、そこに内在する歴史や記憶を観客に喚起させようとする壮大なプランとなっている。

作家選定委員

天 野 一 夫（美術・映像研究家、豊田市美術館チーフキュレーター）

北小路 隆 志（映画評論家、東京国立近代美術館フィルムセンター客員研究員、
京都造形芸術大学映像学科准教授）

西 村 智 弘（映像評論家、東京造形大学非常勤講師）

仁 藤 由 美（映画研究家、名古屋シネマテーク・スタッフ）